

写真展

玉城町指定文化財

かなもりとくすい

金森得水
茶室兼別邸

げんこうしゃ

玄甲舎の四季

令和5年

3月4日(土)

午前10時

▼
午後4時

《会場》

三重テラス

2階イベントスペース

東京都中央区日本橋室町2-4-1
YUITO ANNEX 2F

入場無料

《主催》

玉城町役場産業振興課
玉城町観光協会



げん こう しゃ かな もり とく すい
玄甲舎と金森得水

江戸時代の終わり、田丸城主久野丹波守の家老を勤め、
田丸領の財政再建に貢献した金森得水（1786年～1865年）。
玉城町では得水が設計・建築した茶室兼別邸である「玄甲舎」を、
平成25年1月9日に町指定文化財に指定しました。

多芸多能な人物・得水

像肖翁水得森金



金森得水 肖像

得水は家老でありながら、文人としても世に知られた人でした。国学・書道・和歌・茶道などさまざまな才に恵まれていました。

国学は「国学の四大人」である本居宣長の弟子、本居大平に就いて教えを受け、書道と和歌は、明治天皇の師範も勤めた、有栖川宮熈仁親王ありすがわのみやたかひとしんのうに学び、有栖川流書道の神髓を会得したことで一躍有名となりました。

また、茶道については千利休から続く千宗左に学んで免許皆伝を受け、玄甲舎で表千家茶道の指導に当たりました。さらに得水は、茶にまつわる話を集めた「古今茶話」や、全国の陶器を研究した「本朝陶器考証」などをまとめました。特に「本朝陶器考証」は大正時代に新論文が発表されるまで、権威のあるものとして重宝されていました。

さらに、今でも伝わる日本の古式泳法「小池流泳法」の師範でもあったことから、得水と名乗ったのだそうです。

実績としては、田丸物産所の設立や、領内の荒地開拓が挙げられます。中でも、宮古の大谷池の水利により、岩出を新田として開墾し、茶や桑を植えて農業の振興に努めました。この開墾を称えた墾田碑が、岩出の県道の夜泣き橋近くに建てられています。

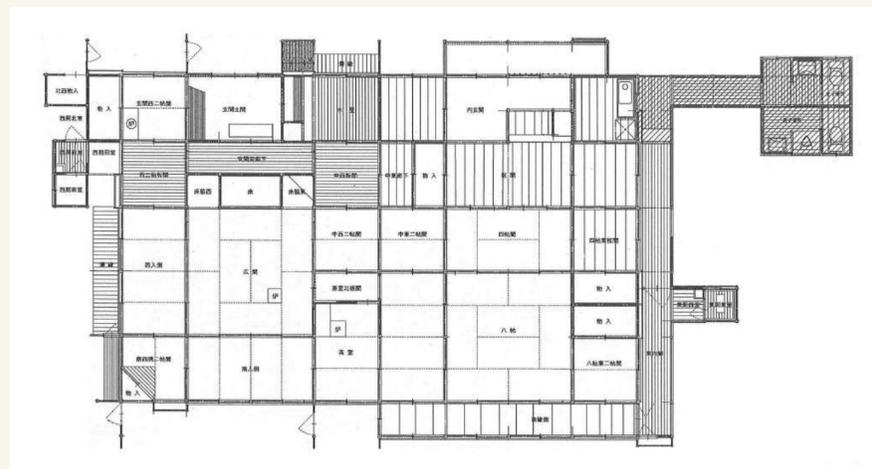
「玄甲舎」について

玄甲舎の総建坪は54.5坪（土蔵・物置は除く）。建物は大きく東西に二分され、茶室と迎賓用を兼ねた数寄屋と、家族が日常生活を営む居宅で構成する総檜の数寄屋造りです。得水が京都から一流の職人を呼び、設計・建築を行いました。

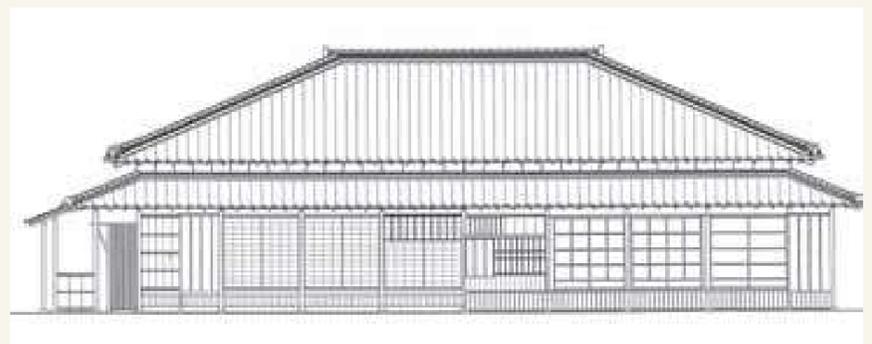
内部は簡素美が追及されており、今もその原型をよく留めています。得水がしばしばここで茶事を催したことは、茶会の記録で残されています。

庭園は約250坪で、石灯籠つくばいや蹲踞（石や岩などで作った手水鉢）が備えられ、木々の間には大小の奇・怪石を取り混ぜた飛び石が置かれています。南面に広がる国東山の山並みくづかを借景とした広大なこの庭園は、建物と同様、文化財的価値の高い史跡です。

玄甲舎は、1847年（弘化4年）に田丸町佐田（JR田丸駅の南側）に建築され、当時は約3,000坪の広さがありました。しかし1893年（明治26年）、田丸駅設置のために、金森家は自発的に私有地を無償提供することを決めました。屋敷の土地が分断されるにも関わらず、現在の玉城町の発展の礎を築いたこの英断の恩恵を、私たちは忘れてはならないでしょう。



平面図



南立面図